

# 新春を迎えて



町長 宮本 明

新年あけましておめでとうございます。  
町民皆様におかれましては、輝かしい希望に満ちた新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

わが国をとりまく国内外の情勢は依然厳しく、原油や原材料の世界規模での高騰は、私たちの生活にも大きな影響を及ぼしております。年金や薬害被害の問題はその解決にまだしばらく時間を要するようであり、毎年のように発生する大きな地震や台風といった自然災害が暮らしを脅かしています。

しかし、そのような中でも私たちは未来へ

の希望をもって、今出来ることをひとつずつ、確実に実施していかなくてはなりません。

幌延町においても、地方交付税の削減、医療制度の改革、公共事業の減少等に伴う企業の業績不振、雇用情勢の悪化など厳しい環境が続いていますが、日本原子力研究開発機構や地圏環境研究所の研究事業などを足がかりに、地域の一層の活性化を図るべく、努力をしてまいりたいと考えます。

深地層研究関係では、昨年六月にPR施設「ゆめ・地創館」がオープンし、一万人を超える方々にご入場いただきました。また、地下掘削も順調に進んでおります。今年からいよいよ「国際交流施設(仮称)」の建設に着手することとなり、完成が待たれるところであります。地圏環境研究関係では、各種の研究事業が展開されており、特に低温熟成チーズの研究などは地域の特色を活かした産業として育つてくれることを期待しています。

町としても、平成二十年度は北星園の改築、幌延小学校の耐震化改修、酪農家の集乳道整備などの事業に取り組むほか、昨年より町民皆様からもご意見等をお聞かせいただき、おりました町立病院の今後の運営形態について、結論を出さなくてはなりません。町民の皆様のご生命に係わる問題ですから、慎重に検討を重ね、わが町の規模、実情に相応しい医療体制を整えたいと考えております。現在、委員会を設置して協議いただいております。「まちづくり基本条例(仮称)」についても、更に協議を進めてまいります。この条例は、幌延町が町民の皆様と協働でまちづくりをするための、基本的なルールを定めるもので、平成二十年度中に議会での可決を目指しています。

今年度は「第五次幌延町総合計画」のスタートの年でもあります。昨年来、審議会委員の皆様や町民の皆様アンケートや懇談会のご意見をいただき、現在策定作業中ですが、十年先、二十年先のわが町の姿を見据えたものとしてまいりたいと思っております。そして、その計画を形にして行くために、町民皆様の一層の町政へのご理解とご参画をいただきますようお願い申し上げます。

平成二十年も町職員一丸となって、町民の皆様とともに明るく、優しいまちづくりを進めてまいります。

新しい年が幌延町と町民皆様にとって、幸多い一年でありますことを心よりお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。